

林業

◇木曾の檜、秋田の杉が有名。炭では紀伊国の備長炭。

鉱業 [P. 194①]

◇佐渡の相川金山、石見銀山、但馬の24 生野 銀山、下野の25 足尾 銅山〔以上幕府直轄〕、院内銀山、阿仁銅山〔以上秋田藩〕「日本のマチュピチュ？」伊予の別子銅山〔住友〕

製鉄 [図表P. 180左下]

◇砂鉄を原料とするたたら製鉄が中国・東北地方で行われ、刀剣の原料となる玉鋼が生産された。

手工業の発達

◇農村家内工業…自前の原料・器具を用いて農村内で零細な生産を行う形態。

19世紀 → 問屋制家内工業…問屋商人が原料・器具を前貸しし、生産物を買上げる形態

26 マニファクチュア (工場制手工業)…労働者が1カ所に集まって手工業生産を行う形態

※19世紀、桐生・足利の絹織物業、大坂・尾張の綿織物業でみられた。ただし、摂津の伊丹・池田・灘などの27 酒造 業においては例外的に17世紀から行われていた。[P. 241①]

〈織物業〉 [図表P. 180]

【絹織物】京都・28 西陣 が有名…熟練を必要とする織機29 高機 を用いる

→18世紀半ば以降、北関東の30 桐生 ・ 足利 が発展、西陣との競争が激化した。

【綿織物】筑後の久留米 緋、豊前の小倉織 など

【麻織物】越後小千谷地方の越後 縮、奈良 晒、近江麻(蚊帳) など

〈製紙業〉

【高級紙】越前の31 鳥の子紙 ・ 奉書紙、播磨の32 杉原紙、美濃紙 など

【日用紙】美濃紙、土佐紙、駿河紙、伊予紙、石見紙 など

〈陶磁器〉

33 有田 焼 [通称「伊万里焼」]、加賀の 九谷 焼、清水焼(京焼の1系統)、備前焼 など

〈漆器〉

春慶塗…能代・飛騨高山などで発達した、着色した木地に透漆を塗って木目の美しさを表す手法。

ほかに能登の輪島塗、陸奥の会津塗、南部塗が有名。

〈醸造〉

【酒】灘・伊丹・池田(摂津)、伏見(山城)

【醤油】34 野田 ・ 銚子 (下総)、竜野(播磨)、京都

☆絹織物や醤油などは、江戸周辺の関東で生産されたものの出荷が、やがて大坂から購入される「下り物」をしのぐようになった。この江戸周辺の関東で生産された物を「地廻り物」とよび、江戸への商品出荷を行う関東の生産地域を近年では「江戸地廻り経済圏」とよぶ。

◇ たたら製鉄により生産される玉鋼は質の高い日本刀をつくるためには不可欠の材料のようです。現在も存在する刀匠にとって、たたら製鉄の技術の継承は大きな課題となっています。(「刀剣女子」「刀剣マニア」には周知の事実かも知れません。)

※ 「刀剣女子」「刀剣マニア」という存在が舟入の先輩に事実存在しましたし、世の中には現在も存在するようです。昨年福岡市博物館(金印の展示あり)を訪れたときには、日本刀の展示室のロビーには展示にちなむゲームあるいはアニメ関連グッズ売り場があって多くの人で賑わっていました。

◇ 酒は近世においても超人気商品で大量生産が必要でした。そこであの大きな酒樽を一カ所に集め、そこに杜氏たちが集まってくるという マニファクチュア が非常に早くから発達していました。

◇ 絹織物の技術は、京都から北関東へ伝わります。幕末に横浜が開港したときに生糸は最大の輸出品となりますが、そのときに横浜に近いという地の利を得て大きく発展したのが、下野(現栃木県)の足利や上野(現群馬県)の桐生を代表とする北関東の生糸産業でした。

◇ 日本では長い間都は西日本におかれ、西日本に人口が集中して商業や製造業も西日本で発達しました。江戸に幕府がおかれ、江戸城周辺に武士や町人が集まって世界有数の巨大都市が生まれても、そこで消費される商品は長い間その多くを大坂を中心とする西日本からの流通に頼っていました。しかし、徐々に江戸周辺の関東地域にも、江戸に供給する商品を生産販売できる技術が普及してきました。この江戸に商品を提供する、江戸を中心とする関東エリアを「江戸地廻り経済圏」といいます。醤油はその代表的な成功例です。一方、江戸で大量に消費されるにもかかわらず、その周辺での生産が定着しなかった商品があります。それが酒です。酒の製造技術のうち、関東の杜氏が十分に習得できなかった技術があったようです。酒は完成した後で、その後の発酵や腐敗が起こらないように、酒の中の酵素の働きを止め、乳酸菌などを死滅させるための火入れを行います。十分に行わないと菌が死滅せずに発酵が進んで酸っぱくなってしまい、火を入れすぎると風味がとんでしまいます。この技術を盗みきることができず、酒は伏見や灘が特産地であり続けました。